

学力・学習状況調査結果から見た 扶桑町の児童生徒の状況 その2.

文部科学省によって昨年度から全国一斉に「学力・学習状況調査」が行われております。
昨年行われた学力・学習状況調査の結果からみて、学習状況に関して扶桑町の児童生徒の傾向は次のようになります。

なお、児童生徒に個人差がありますので、以下に記載させていただきました内容が必ず誰にも当てはまるわけではありません。扶桑町の子どもたち全体の傾向としてご理解いただきますようお願いいたします。

児童生徒質問紙の回答にみる扶桑町の子どもたちの実態

事柄	小(%)	中(%)	事柄	小(%)	中(%)
朝食を食べている	95	95	学校の準備を前日に必ずしている	61	71
平日家の人と一緒に朝食を食べる	60	31	家の人と一緒に運動をしている	39	17
平日家の人と一緒に夕食を食べる	85	77	家の手伝いをしている	81	51
午前7時半までにおきる	99	99	将来の夢を持っている	84	76
毎日同じくらいの時刻に寝ている	70	60	家の人と学校での出来事を話している	72	53
午後10時(小)午後11時(中)までに寝る	37	27	家で自分の興味のあることを調べる	51	45
7時間以上睡眠をとっている	89	41	学校で友達に会うのが楽しい	97	91
平日、3時間以上テレビを見ている	37	25	学校で好きな授業がある	93	75
平日1時間以上TVゲームやインターネットをしている	47	17	学校で楽しみな活動がある	90	78
テレビやゲームの時間などのルールを家の人と決めている	49	19	学校の規則を守る	90	89
食事のときテレビを見ている	79	80	人の気持ちが分かる人になりたい	91	90
携帯電話で通話・メールを毎日する	10	28	人の役に立つ人間になりたい	92	86
平日2時間以上勉強する	21	58	いじめはどんな理由でもいけない	93	84
休日2時間以上勉強する	16	54	世の中の出来事に関心がある	65	58
平日30分以上読書をする	34	23	今住んでいる地域が好き	85	70
家で学校の宿題をしている	96	93	地域の行事に参加する	78	47
家で授業の予習をしている	36	36	近所の人に挨拶をする	89	77
家で授業の復習をしている	43	23	家族・先生以外の大人から注意されたことがある	42	28
学習塾に通っていない	58	32	海・川・湖・山で遊んだことがある	84	83

右記の表は、多くの調査項目から抜粋したものです。表では読めない事柄を含め若干の説明を加えます。

※朝食については、ほとんどの子が食べていますが、全員ではありません。朝食を食べてない子の正答率は、食べている子と比較して小学生では32ポイントも低いのです。脳の活動のために朝食がいかに重要かがわかります。又、食事を一人で摂る子ども（個食）が増えていることが問題になっていますが、朝食にその傾向が強く、特に中学生では、部活動で朝早く家を出るためか70パーセントの子どもが一人で朝食を食べています。

※睡眠については、子どもたちも夜型になり、中学生は午前0時以降に寝る子が35パーセントもいます。小学生は、9時〜11時に寝る子達の正答率が高いのですが、中学生では0時以降に寝る子ども同じような正答率でした。

※テレビ・TVゲーム・携帯電話については、それらに費やす時間の長さが気になります。テレビなどを見ている時間の長い子ほど正答率が低くなっています。視聴時間などについて小学生ではルールを決めている家庭が半数近くあるものの、中学生になると放任状態になってしまう実態も見えてきました。また、食事をしながらテレビを見ている家庭が小・中学生とも80パーセントあります。理由は分かりませんが、見ている子より見えない子たちのほうが正答率は明らかに高い結果が出ています。

※2時間以上勉強する子どもが小・中学生ともあまり多くなく、しかも平日よりも休日のほうが少

ないのが気になります。特に休日の勉強時間は、全国の子どもたちと比較しても明らかに短いという結果になりました。もちろん正答率に関係しています。特に、「知識」にかかわる問題の正答率が低いという傾向が見られます。

※平日まったく読書をしていない中学生は53パーセントもいますが、よく読書をする子に比較して国語の正答率は少し低いものの、数学の正答率には関係していませんでした。この傾向は小学生でも同様です。しかし、読書は、広く教養を深めたり、イメージを豊かに広げたりする。また豊かな情操を養うなど大切なものです。テレビを見る時間を読書に向けていただきたいものです。

※学習塾に関しては、小学生では、塾へ行っていない子の正答率は低くありません。しかし、中学生では塾へ行っている子のほうが正答率は高くなっています。これは、学校の勉強が十分身につけている小学生は塾へ行かない、しかしその子達も中学生になり高校受験を控え、さらに力をつけようと塾へ通うようになるためと考えられます。又、この表にはありませんが、塾では、学校で分からなかったことの補充と、より進んだ内容の学習の両方に取り組み子どもたちの正答率が高くなっています。

※家の人との話し合いや運動など触れ合いの機会が中学生では少なくなりますが、家の人との話し合いの機会の多い子どもは、国語の「活用」に関する問題の正答率が高くなっています。日常生活の中で大人との会話で言語活動が豊かになるためと想像されます。

※家で宿題をする、学校で友達と会うことが楽し

い、学校の規則を守る、人の気持ちが変わる人になりたい、人の役にたいたいなど扶桑町の多くの子どもたちが素直に育っていると感じますが、小学生に比べ、中学生は学校生活を楽しいと感じる割合が下がっています。中学校3年生という「勉強」を意識せざるを得ない状況に置かれているためと思われれます。

※「いじめ」に関しては、中学生は「どんな理由でもいけない」と答える生徒が減ってきています。これは「いじめ」を肯定する子が増えているのではなく、友達関係がより複雑になり、「いじめ」について単純に考えてはいけないという意識の表れと思われる。中学校においては、頭ごなしに「いじめはどんな理由があってもいけない」という指導ではなく、「いじめ」について真剣に考え、話し合い、その上で各自が「いじめはしない」という意識を持てるような指導を進めていかななくてはなりません。

※地域とのかかわりでは、近所の人に挨拶をするなど比較的できていると思われれますが、地域行事への積極的な参加、地域の人からの注意など中学生になるとかかわりが少なくなっています。

これらの実態を踏まえ、教育委員会では、学校での取り組みの改善と共に、町民の皆様には4月より広報無線による「子育てキャンペーン」活動を展開しております。子育てに関し、大人が心がけていただきたい内容について1週間ごとに町民の皆様と呼びかけを行います。扶桑町の子どもたちのために積極的に取り組みいただきますようお願いいたします。

文責 教育長 河村共久